

教養講座 地元学を考える

第百五十四回「地元学を考える」
(二〇一六年十月十五日開催)

「エシカルな
ものづくり」

講師 大竹 愛希さん

今年で十周年を迎えた合同会社楽膳、その中身を「楽膳」に、「楽」しく知ることのできた今回の地元学でした。一時間半の講演のうち、前半はこれまでの楽膳の歩みについてのプレゼンテーション、後半は楽膳の新商品に関するワークショップとなりました。

二〇〇六年の設立と共に、「楽膳」を販売開始したのが楽膳の第一歩。「楽膳」はもちろんのこと、それ以降、楽膳が開発・販売している製品も、生産工程に必ず障がいを持った人が関わっており、ノーマライゼーションの考え方を企業理念の中軸として掲げていることがわかります。また、理念として掲げるだけでなく、楽膳の今までの歩みに鑑みると、それをきちんと実行に移していることは明らかです。二〇〇三年に障がいのある人ない人を巻き込ん

者さんができる作業を準備しようという配慮がみられ、そういった心遣いに大変感謝しています。

だユニバーサルデザインワークショップを開催し、そこで得られたフィードバックを参考に「楽膳」を開発したこと。着想段階だったり製作段階だったり、様々な場面で「障がいの有無に捉われな

い」作品作りをしています。僕自身も、福祉施設職員として、楽膳の製作過程に関わるもの一人ですが、大竹さんは製作過程に関わる人々それぞれにとって、大切なものは一体何なのかを心得ていると思います。例えば、施設での作業行程の中で発生するお金は、そのまま利用者さんの工賃につながるということを大竹さんはよく分かっています。そのため、なるべく利用

後半、試作品のおちよこについて、いくつかのサンプルを基にその日の参加者と検討会を行いました。「持ちやすい、扱いやすいデザイン性のあるおちよこ」を考えるにあたり、様々な創意工夫がみられ、試作の段階で十分完成度の高いものばかりでした。様々な展示会・販売会を通じて、日本内外に広く知れ渡りつつある楽膳、そのムーブメントを後押しするような作品になってほしいと願っています。

「障がいを持つ人が障がいを持つ人を助ける」。楽膳の作品作りを通して、そんな素敵な助け合いの輪をつくることができていると実感し、大変嬉しく思う今日この頃なのでした。(一條仁)

第百五十四回の感想はベーシック職員の一條さんに寄稿していただきました。ありがとうございました。



ワークショップの様子。試作品を手に取りながら使いやすい改善点をチェックしてもらいました。

「マチュピチュ村創設者」 野内与吉と 古代アンデス文明展」

100年の時を越えて 地元で開催！（後編）



笑顔が素敵なボランティアの皆さん

先月に引き続き「アンデス文明展」開催の様子をご報告します。

ボランティアは大玉村の皆さん(三十一名)を中心に、放送大学や桜の聖母学院の生徒さんが交代で行い、搬入と搬出・受付・販売・民族衣装の貸出や写真撮影・イベントの会場設営・会場内誘導などなんでも臨機応変に来場者の皆さまに笑顔で対応していただきました。セサルさんも、毎日のアコーディオン演奏や歌だけでなく、来場者やボランティアの皆さんに片言の日本語で声をかけてくださっていました。何事にも一生懸命で陽気なセサルさんや、笑顔で対応してくれたボランティアの皆さんの行動が、会場内をアットホームな雰囲気にしたのではないのでしょうか。

また、大玉村のボランティアさんと日本マチュピチュ協会長の野内良郎さんと展示会の前後数回集まり、展示会や今後のことについて活発に意見が出され、いつも夜遅くまでの会議となりました。集まる場所も公民館などの公共施設では時間に制約があるので、大玉村にある温泉宿のご主人に相談したところ、快く会

場を貸していただけたので、時間を気にせず実施することができました。展示会終了後の振り返りの中で、福島県の方々でまだ故与吉さんの功績を知らない方が多いこと、子供たちの来場が少なかったことがあげられました。このことから、良郎さんがかねてからの夢である資料館の必要性を強く感じたそうです。

今回は主催者との間に、大玉村の皆さんのボランティアコーディネートと会議の段取りをさせていただきました。展示会については、皆さん協力的でスムーズに交代や補充をすることができました。会議においても忙しい中たくさんの方が参加してくださいました。皆さんのボランティア精神の高さに感謝でした。故与吉さんがヘルパーで人の役に立ちたい、目の前のことを何とかしたいと頑張ってきたように、今度は大玉村の皆さんが良郎さんの夢を叶えるため、また友好条約を結んだ大玉村とマチュピチュ村のために何か行動を起こそうと集まっています。しかし、これからの取り組みが大きな課題です。今後は、大玉村内外を問わず多くの方の協力が必要なのかもしれません。百年の時を超え、故与吉さんが日本で、地元で本格的に動き出します。(大玉村在住・佐原佐吉白)



地元旅館「金泉園」の協力で行われた会議